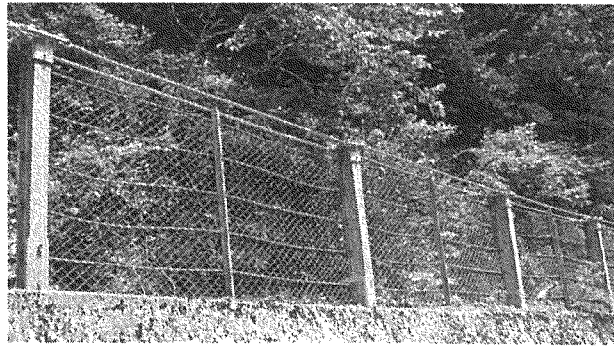


2倍以上

# 既設ストーンガードの強度を安価に容易に能力アップ

## ストーンガー工法がNETIS登録

三角フェンスなどの斜面防災システムを製造販売するビーセーフ(富山県南砺市、松嶋秀士社長)は、既設の日鋼式落石防護柵(ストーンガード)を簡易な施工のみで補修・補強できる低コスト、短工期の新技術



高強度のワイヤ金網が特長のストーンガー工法

「ストーンガー工法」を開発、このほど国土交通省新技術情報提供システム(NETIS)に登録(登録番号HR140004A)された。国内で主流の日鋼を支柱とする落石防護柵は、一般的に落石エネルギーに対する強度は50kJ(キロジュール)程度相当であり、これは70センチ程度の落石が15メートルの高さから転がり落ちる規模のエネルギーとされ、想定以上の落石が発生した場合は柵の破損はもちろ

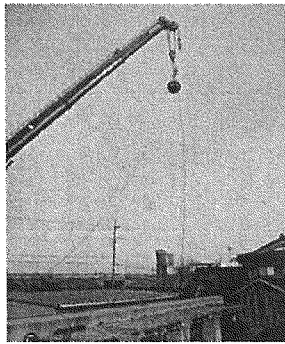
### ビーセーフ

ん、貫通により道路災害や痛ましい人的な被害も引き起こす。

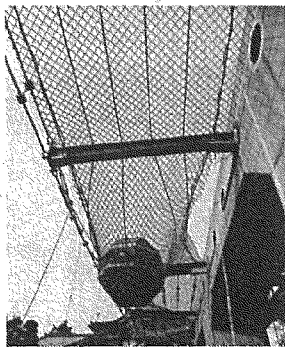
同社が開発したストーンガー工法は、3本の鋼線を1本の束にした高強度のワイヤ金網を既設の金網の上から張り付け、ワイヤロープに高性能緩衝装置を取り付けることで、これにより100kJ相当の落石が衝突した場合でも金網を突き破ることなく、部材の破損も防止でき、

従来のストーンガードの2倍以上の強度を表現(同社性能試験結果)。さらに、既設の防護柵を解体せず、現場へは軽量部材のみ搬入で重機が不要なため、工事に伴う長期間の交通規制や迂回路の必要性もなく、工事には工具による締込み作業とあって環境にもやさしい工法である。富山県の2012年度「とやま発明賞」も受賞している。

主に山間部の道路などに設置される落石防護柵(ストーンガード)は、昭和30年代頃から整備が始まり、整備延長は全国で数千キロに及ぶといわれている。しかし設置後、年月の



上部から重錘(100kJ)を落下させて強度を実証した性能試験

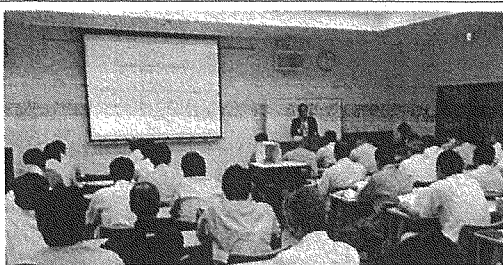


経過により、柵の破損や土砂、岩立木などの堆積から、その機能が失われている防護柵が国内の至るところに見られる。

同工法の開発に長年携わってきた松嶋社長は「2010年から延べ18回にも及ぶ実験で性能を検証してきた。3年前から富山県南砺市で試験施工も行っており、自信を持って勧められる工法」と説明。すでに、長野県内では同工法を採用し、落石の飛び越え防止を目的に、既設の高さ2メートルの防護柵を2.5メートルかさ上げする工事がスタートするなど、NETIS登録以降、官公庁はじめ、全国の設計会社や建材商社からの問い合わせが続々と来ているという。

## 効果的な道路保

今年度に入り、石川県内で道路保守修繕作業中の死亡災害が多発している状況を踏まえ、金沢労働基準監督署は28日、金沢市粟ヶ崎4丁目の金沢



### セミナーで育児休業者交流

福井銀行は28日、福井市下六条町の福井県生活学習館(ユー・アイふく)で育児休業者向けセミナーを開催した。育児休業中の行員が子どもと一緒に参加し、交流を深

## 防災力・事業継続力の向上へ

### 鹿島北陸支店が震災訓練を実施

鹿島建設北陸支店(新)の収集・伝達・共有の連携などを確認した。携などを確認した。事業継続力の向上を図る

## 12カ月連続でマイナス

### 7月の金融あっせん状況

石川県商工会連合会によると、県内20商工会が7月に実施した金融あっせんは件数で前年同月比50.7%減の74件と5カ増となる。

建設業が47.0%でトップに立ち、次いで繊維工業が16.0%、その他が11.6%、その他工業8.0%の順だった。

成比は10.6%と前月比1.3ポイント上昇した。業種別の設備資金比率は鉄工業が57.1%と最も高く、続いてその他38.7%、飲食・宿泊29.8%、建設業8.9%となっている。